

ペットの老化は人間よりも早く進むもの

ペットは人間よりも早くライフステージが進みます。ご自身のペットがどのライフステージにいるのかを確認しましょう。

猫のライフステージ¹



子猫 生後から1歳まで

若年 1歳から6歳

中年 7歳から10歳

高齢 10歳以上

犬のライフステージ²



子犬 生後から急速な成長が終わるまで
(6~9か月頃、犬種や大きさにより差がある)

若年 急速な成長が終わり、身体的および社会的な成熟が完了するまで。
多くの場合3歳から4歳まで

中年 身体的および社会的な成熟が完了し、推定寿命の残り25%まで
(犬種と大きさにより差がある)

高齢 推定寿命の残り25%から寿命を迎えるまで

今すぐペットの
次回の健康診断を
予約しましょう！

IDEXX

One IDEXX Drive
Westbrook, ME 04092
United States

*SDMAは対称性ジメチルアルギニンです。

IDEXX SDMA検査に関する説明や、裏付けとなる科学的根拠について、詳しくは[idexx.com/SDMAclaims](https://www.idexx.com/SDMAclaims)にアクセスしてご確認ください。

参考資料

1. Feline life stage definitions.American Animal Hospital Association.Accessed November 29, 2022.www.aaha.org/aaha-guidelines/life-stage-feline-2021/feline-life-stage-definitions
2. Canine life stage definitions.American Animal Hospital Association.Accessed November 29, 2022. www.aaha.org/aaha-guidelines/life-stage-canine-2019/canine-life-stage-definitions

© 2022 IDEXX Laboratories, Inc. All rights reserved. • 09-2098428-03
®/TMの商標はすべて、米国およびその他の国のIDEXX Laboratories, Inc.
またはその関連会社が所有しています。IDEXXのプライバシーポリシーは、
[idexx.com](https://www.idexx.com)からご確認ください。



IDEXX

ペットの健康を守る
定期健診

ペットの 定期健康診断が 重要な理由

定期的な健康診断は、ペットができるだけ長く健康的な生活を送れるようにサポートするための、優れた手段です。こうした健康診断は、潜在的な健康上の問題を早期に把握できると同時に、病気が発見されずに進行してしまった場合の、治療に掛かる追加費用の発生を防げる可能性もあります。

代表的な健康診断には、以下が含まれます。

身体検査

ペットの歯、体重、関節、皮膚、耳に変化がないか確認します。上記の変化があった場合、病気の兆候である可能性があります。

診断スクリーニング検査

血液、糞便、尿の検査を含む診断スクリーニング検査を通じて、ペットの内臓の健康状態をチェックします。これらの検査結果は、ペットの全体的な健康状態を管理し、経過を見守るために役立ちます。

結果の確認

毎年の検査結果における変化を確認します。変化は、健康上の問題を早期に検出する役割を果たします。



+++++

健康診断で確認するポイントとその理由

身体検査と血液、糞便、尿の検査を含む健康診断で、以下の項目に基づいてペットの健康状態を評価することができます。



心臓と肺

感染症や病気により、ペットの心臓と肺が十分に酸素を含んだ血液を体中に運ぶことが困難になります。



肝臓

ペットの肝臓には、タンパク質、脂肪、消化、老廃物の処理に関する問題が潜んでいるかもしれません。こうした問題は、病気、閉塞、投薬などによって引き起こされる可能性があります。



膵臓と腸

これらの消化器に問題がある場合、膵臓や腸の炎症、糖尿病、もしくは何らかの癌が原因である疑いがあります。



腎臓

腎臓は主要な器官を支える重要な臓器です。SDMAは、腎臓に影響する病気のほか、腎臓に影響を及ぼす他の疾患過程に関しても早期の指標となります。*

その他

ペットの歯、体重、関節、皮膚、耳に変化が見られる場



甲状腺

甲状腺が適切な量のホルモンを分泌していない場合、ペットの代謝に影響を及ぼすおそれがあります。



血球

完全血球計算 (CBC) を行うと、ペットが感染症と戦っているのか、または出血の問題を抱えているのかが明らかになります。



尿

尿検査では、ペットに脱水症状、腎臓病、糖尿病の徴候があるかどうかを知ることができます。



糞便

糞便抗原検査を行えば、寄生虫がペットに寄生していないかを確認できます。他の種類の糞便検査では、こうした一般的な腸内寄生虫を見落とす可能性があり、人間にも問題を引き起こす可能性があります。

場合は、病気の徴候である可能性があります。